

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進		
<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>2 友達への思いやり</p> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>3 道徳・心の教育の充実</p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【成果】3項目とも保護者の肯定的評価が3年連続して高い傾向にある。毎月のきずなアンケートの取組など、子ども一人一人の訴えに細やかに対応している成果であると思われる。【課題と方策】「一人一人の児童生徒の尊重」について、「どちらかといえばそう思わない、そう思わない」と評価した児童が、昨年度よりやや増えている。児童一人一人と話す時間、向き合う時間を生み出す必要がある。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進		
<p>4 意欲的な学習態度</p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>5 授業力向上</p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>6 ICT活用</p> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【成果】「ICT機器を活用したわかりやすい授業づくり」において、保護者・児童・教職員ともに昨年度よりも「3」「4」の割合が上がっている。今後、熊本市はIoT環境がますます充実してくるので、その効果的な活用に向けてさらに研修を重ね、共通理解を図っていききたい。【課題と方策】「わかる授業、楽しい授業づくり」において、教職員はほぼ「3」「4」の評価をつけているのに対し、勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが7%（33人）存在するという事実を謙虚に受け止め、研修を通して授業改善を図る取組を継続して行う必要がある。</p>		

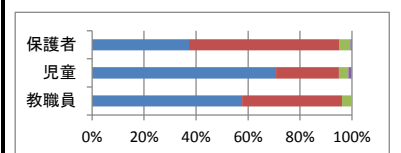
③健やかな体を育む教育の推進	
<p>7 健康づくり</p> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	
<p>【成果】教職員の肯定的回答が、2年連続で増えている。パワーアップタイム等の取組により運動量を確保した成果であると思われる。</p>	

④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実		⑤特別支援教育の推進	
<p>8 児童生徒理解</p> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>9 いじめや問題への対応</p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>10 学校の支援体制</p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	
<p>【成果】「学校の相談支援体制」について、教職員の肯定的回答が98～100%となっている。タイムリーなケース会議と組織対応が機能していることが結果に結びついた。【課題と方策】「いじめや問題への対応」について、9割程度の保護者が肯定的な回答をしたものの、否定的回答が1割ほどある。また、児童についても、5人（1%）の児童が「話を聞いてくれない」と回答している。よりきめ細やかな対応が必要である。また、いじめ等の問題解決には、保護者の理解と協力が不可欠である。学校での取組や実践が保護者に伝わるよう、速やかな報告や説明を重ねることで保護者との連携を深め、さらに信頼関係を高めていく必要がある。</p>			

①子どもたちの身近な安全対策の充実

11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

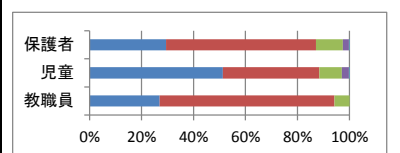


【成果】三者共に肯定的回答が95%を超えた。「自分の命は自分で守る」という意識が浸透してきたようである。休み時間の遊び方や登下校時の交通安全等の丁寧な指導を今後も継続していく。

②最適な学習環境の整備

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

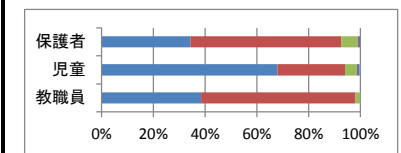


【成果】三者共に肯定的回答が微増している。エアコンの整備も貢献しているのではないかとと思われる。増加する児童数に対応するため、計画的な整備・管理を施し安全性を維持していく必要がある。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

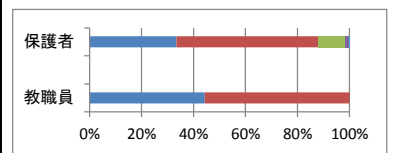
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【成果】「教育方針・教育目標の理解」について教職員の肯定的回答が98%と高かった。また、保護者の肯定的意見も5%向上し、93%となった。要因として、教職員の教育目標や重点努力事項への意識が高まっていること、学校だよりやHPでの発信で定着してきたことなどが考えられる。今後も、継続して伝えるとともに、地域に目を向け地域行事等にも積極的に関わろうとする意識を高めていかなければならない。

14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

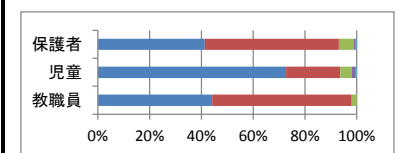


【成果】「教育方針・教育目標の理解」について教職員の肯定的回答が98%と高かった。また、保護者の肯定的意見も5%向上し、93%となった。要因として、教職員の教育目標や重点努力事項への意識が高まっていること、学校だよりやHPでの発信で定着してきたことなどが考えられる。今後も、継続して伝えるとともに、地域に目を向け地域行事等にも積極的に関わろうとする意識を高めていかなければならない。

④本校の教育

15 1

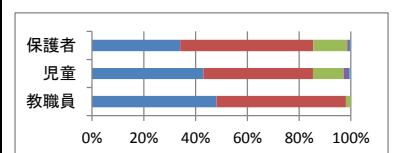
学校は、児童が自分や友達の良いところを言えるような指導ができていますか。



【成果】教職員は3項目全てにおいて98%と高い数字がでた。また、保護者、児童ともに「自分や友達の良いところを言えるか」に対して93%以上が肯定的な回答をしている。「ありがとうの心」や「子どもに向けたメッセージ」等の取組で自己肯定感が高まっているのではないかと考える。「自分の思いや考えを、理由を示して伝える」ことに関しては、「ゆうゆうタイム」や「名文の暗唱」で向上してきていると考える。【課題と方策】「自分や友達の良いところを言えない」と回答した児童が7人(1%)いる。今後さらに自己肯定感を高める取組が必要である。

16 2

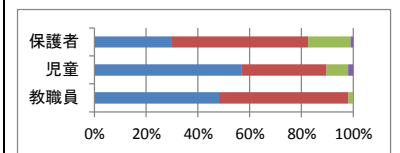
学校は、児童が自分の思いや考えを、理由を示して伝えることができるような指導ができていますか。



【成果】教職員は3項目全てにおいて98%と高い数字がでた。また、保護者、児童ともに「自分や友達の良いところを言えるか」に対して93%以上が肯定的な回答をしている。「ありがとうの心」や「子どもに向けたメッセージ」等の取組で自己肯定感が高まっているのではないかと考える。「自分の思いや考えを、理由を示して伝える」ことに関しては、「ゆうゆうタイム」や「名文の暗唱」で向上してきていると考える。【課題と方策】「自分や友達の良いところを言えない」と回答した児童が7人(1%)いる。今後さらに自己肯定感を高める取組が必要である。

17 3

学校は、児童が周囲に目を向けて進んであいさつをしたり、清掃をしたりするような指導ができていますか。



【成果】教職員は3項目全てにおいて98%と高い数字がでた。また、保護者、児童ともに「自分や友達の良いところを言えるか」に対して93%以上が肯定的な回答をしている。「ありがとうの心」や「子どもに向けたメッセージ」等の取組で自己肯定感が高まっているのではないかと考える。「自分の思いや考えを、理由を示して伝える」ことに関しては、「ゆうゆうタイム」や「名文の暗唱」で向上してきていると考える。【課題と方策】「自分や友達の良いところを言えない」と回答した児童が7人(1%)いる。今後さらに自己肯定感を高める取組が必要である。

来年度の具体的な取り組みについて

○<徳>について

・「道徳の公開授業」や「親王道徳の日」等の取組を行うことで保護者の意識も高まってきている。今後は子どもの心に響く道徳の授業展開のために、さらに研修を積んでいきたい。

○<知>について

・「自分の考えを伝え合う力を育てる授業づくり」をテーマに、授業改善に努めてきた。全職員の公開授業とゆうゆうタイムは継続させたい。また、ICT機器の効果的な活用や思考を整理するための板書等の共通理解を図っていきたい。

○<体>について

・パワーアップタイムや体育的イベントで子どもたちの体力は確実に向上している。今後もこの取組を継続させていく。

○<緑化・環境>について

・「人」「もの」「言葉」を大切にしたり、働く喜びを感じたりする子どもが増えてきている。卒業式や入学式の花を自分たちの手で育てようという気持ちも育っている。今後も継続して取り組んでいく。無言掃除については、学校全体で頑張る週間を設け、指導を継続していく。

学校関係者評価

・学校評価全般を見て、どの項目も4や3の割合が高い。学校の取組が全体的に好評価されていると思われる。授業を見て回ったり、11月に行われた学習発表会の様子を見たりしても、どの学年の子どもたちも落ち着いて学習に取り組んでいる姿が伺える。

・結果を見ると、保護者と児童の評価に差がみられる。保護者は子どもの話から情報を得ることが多いのだが、保護者が子どもとどれくらい話をしているのかが問題。子どもと話す時間をより多く設けることはもちろん、学校だよりや学年・学級だよりをきちんと読んだり、学校ホームページを見たりするなど、保護者が学校の情報をより多く得る努力をすることが大切だと思う。

・ICT機器の活用については、授業を見て回っても電子黒板を教師の多くが活用している。保護者による評価で2と1が10%ほどあるのは、授業参観等にいられていない保護者ではないのか。

・児童数から見て、運動場がとても狭い。休み時間の遊び方について学校で細かに遊び方の決まりを決めてあり、子どもたちも上手に運動場を使って遊んでいる。今後も大きなけがが起きないように、安全管理に留意してほしい。